

第62回 和歌山県高等学校同窓会連絡協議会総会

南部高校・南部高校学友会が当番校に

南高
学友会
本部だより

【発行所】
南部高等学校
学友会事務局
和歌山県日高郡
みなべ町芝 407
TEL: 0739-72-2056
FAX: 0739-72-2394

南高生の熱演に万雷の拍手

令和6年7月7日(日)、ブランドメルキュール和歌山みなべリゾート&スパ(旧みなべロイヤルホテル)で第62回和歌山県高等学校同窓会連絡協議会総会が開催され、県下高等学校33校から同窓会会長、校長、事務局長ら100余名が参加しました。

第一部では南部高校東善彦学友会長、南部高校辻強志校長、来賓の方々のあいさつに続き、東会長より会長在任期間14年の西岡正好様(那賀高等学校)、18年の福田資弘様(有田中央高等学校)に感謝状の贈呈が行われました。また、次期当番校は笠田高校に決定しました。

第二部では記念行事として南部高校の吹奏楽部、書道部、美術部の生徒による合同パフォーマンスが行われました。

吹奏楽部の演奏が流れる中、美術部が千里の浜のうみがめの絵をキャンバスに大きく描き、さらに書道部が画面いっぱい「詩「果てしない時を越えて…」を書いていくという、三つのクラブの見事なコラボレーションに、会場からは万雷の拍手が贈られました。

この会の開催にあたりご支援ご協力を賜りました多くのみなさまに厚くお礼を申し上げます。



東会長あいさつ



感謝状贈呈



作品完成図



合同パフォーマンス

地方が持つ可能性

みなべ町長 山本 秀平



これからの地方は人口減少、少子高齢化、それに伴う産業の衰退などあらゆる課題に直面しています。それでも私は地方には未来があると信じています。豊かな自然、人のつながり、地域の歴史や文化など都市部にはないものがあります。土や水に触れ、命の近さを感じることができの田舎の良さだと思っています。自分が経験したように、子どもには川遊びや山で走り回る経験をしてほしいと思います。それは人間が幸せに生きるた

めの本質的なものだと思うからです。

しかし、現実には仕事を求めて都市部に若年世代が流出しています。地方には仕事の選択肢が少ないのが現状です。さらに都市部は仕事があるだけでなく、利便性がよく、公

共サービスも充実し、イベントや娯楽などの人から与えられるサービスは溢れています。しかし、効率を求めるがあまり画一的な町が増えてしまっているのではないのでしょうか。地方には多少不便さはあっても、自分で何かを作り出す面白みやチャンスは多いと思っています。町のいいところ目に目を向け、「自分がどう生きるか」を考えることが大事だと私は25歳で考え方が変わりました。

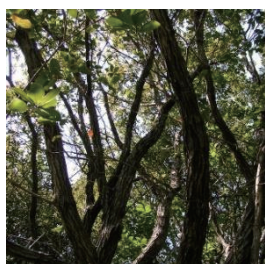


今、南部高校は生徒数の減少が問題視されています。しかし、そもそも子どもの数は30年前から4分の1ほどに減少しています。その状況で生徒数を増やしていくことは簡単ではありません。南部高校をどのように盛り上げていくのか、目的を定めることがまずは必要だと思っています。私は、何よりも南部高校の生徒たちが生き生きと未来に希望を持ち、輝けるような教育環境を考える必要性を感じて



います。生徒数は少なくても、「一人ひとりが輝いている」そんな学校に結果的に人が集まるのではないのでしょうか。そのためにも、南部高校をなんとかしたいと思う皆さんのお力が必要です。その想いに、行政としてできる支援を考えていきたいと思っています。

先輩方が作り守ってきたみなべ町の歴史や文化、産業、その魅力や可能性を最大限活かし、次の世代にも繋げていくことが私の使命であり原動力です。まだまだ足りないところの多い人間ではありますが、みなべ町を想う皆さんと共にみなべの未来のために頑張りたいと思っています。これからもご指導よろしくお願いいたします。



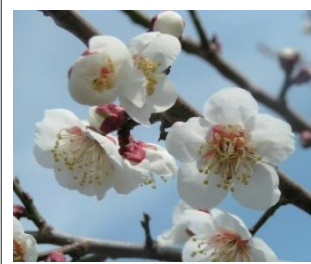
みなべ町の木(町木)
うばめがし



みなべ町の魚(町魚)
いわし



みなべ町の鳥(町鳥)
うぐいす



みなべ町の花(町花)
梅

卒業生として

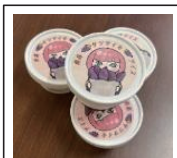
昭和五十年卒 泰地 孝紀

南部高校出身でありながら、なかなか母校に赴任する機会もなく、ようやく南部高校に赴任できたのが、今から14年前。卒業以来、36年ぶりに聞いた校歌に感動したことを、今でもよく覚えています。南部高校での最初の8年間は教諭として勤務し、62歳で退職しました。その時に担任もさせて頂き、その生徒達がおそらく教師生活最後の担任の生徒になるだろうと思い、感慨深いものがありました。時には大変な時もありましたが、お互いに信頼し合い、担任として楽しい日々を送ることができました。そして、退職後3年間は進路で就職のサポートの講師として勤務する機会を頂きました。生徒達の就職の選択肢を増やそうと企業開拓や生徒の適性に応じた会社の紹介などをし、生徒達のた

めだけでなく、母校の発展のためにという気持ちもあり力を注ぎました。その後3年間は非常勤講師として週3日だけ、教科の指導にあたっていました。その14年間、南部高校の生徒達と触れ合う中で気づいたことは、私が50年前生徒だった頃の生徒気質とほとんど変わりないということです。純朴で人懐っこく屈託のない明るい生徒達だということです。また、先生方も熱心で、非常勤講師で週3日來ながら、先生方には頭の下がる思いをしています。14年間南部高校の生徒達、先生方と共に過ごしてきて、これから南部高校へ来る生徒達に「南部高校は楽しいですよ。良き先輩方、そして、君たちの気持ちを理解し親身に相談に乗ってくれる先生方が待っていますよ。」



と伝えたいです。ここ数年、南部高校の在籍生徒数が減っていますが、卒業生としては、心が痛みます。全国的な少子化問題、都会で就職するとなかなか田舎に帰って来てくれない等の要因で、私が住んでいる地域でも住民が減少しており、将来、地域の発展の事を考えると危惧するところでもあります。これからの喫緊の課題の一つとして、地元に残って働いてくれる人をいかに増やすかということがあると思います。そのためには、もちろん基幹産業である梅産業の安定と発展とともに、大変難しいと思います。魅力ある企業の地元誘致等も大切なことです。それと同時に、地元に残り、その発展のために尽力し、リーダーシップを発揮して、地域の担い手になれる人材の育成ということも重要な面を持っています。そういう面で南部高校の役割は非常に大きなものとなってくると思います。今、まさに南部



南高アイス

高校は、そういう生徒を育成するため、デュアルという講座を授業の中で取り入れ、2年生では1年間を通して毎週1日企業で体験学習をしたり、1年生では生徒全員が参加する

もっと南高のPRを！

南部高校農業科教諭 狩谷 弘

る地元企業との体験学習を取り入れたりしています。私は、一卒業生として、これからの南部高校の発展を願ひ、これからも応援をしたいと思っています。

南部高校を卒業し、母校に戻ってきてはや21年が経とうとしています。この間にも南部高校の学科、カリキュラムが大きく変わってくる課程を目の当たりに見えてきました。現在、南部高校は普通科、食と農園科の2学科あります。少子高齢化が問題となっており、本校でも入学者が減少しているのが現状です。しかし、農場で令和元年に新実習棟が完成し最新の施設、設備が整い充実した実習が行える嬉しいこともあります。さらに、全国で初となる農業科で調理師免許が取得できる調理コー

スも出来、令和7年3月に初めての卒業生を送り出しました。このように、農場で最新の施設を利用しながら、生徒たちが充実した実習を行うことが出来、パン、アイスクリーム、ジャム等を製造・販売しメディアに取り上げてもう一つのこともありPRにもつながっていると思います。今後、生徒の活躍をSNSやメディアを通して発信しながら、南部高校の活躍を多くの方々を知ってもらいたいと思います。



南高生3名がフランスへ

国内で1校

2025.2.4～2.9 日仏農業高校祭

～ 農林水産省「日仏農業教育連携事業」の一環 ～

日仏交流で成長する私

南部高校 食と農園科 園芸コース3年

横畑 光洋

今回の日仏交流はこれまでのオンライン上ではなく、フランスでの実際の対面の交流であり、私にとって人生初の海外ということ、不安も沢山ありました。今回、先生からフランスに1校だけ行ける

と聞いて、是非参加してみたいと言って参加させていただきました。行ってみると、みんなとても歓迎して下さって、学校のことや普段の生活について色々聞いてくれました。質問は、直接的でとてもいいなと思いました。時間がたつにつれて仲良くなっていきました。

した。スマホの翻訳機能を使い交流をさせていただきましたが、全体的に感じたことは、やはり言葉の壁です。お互いどうにかして話そうとしましたが、こまかなところは難しく、語学はとても大事だと痛感しました。今回の交流では、将来のために生かせる学びが多くありました。また、世界の広さを感じるために、色々な学びをもっと頑張ろうと改めて思いました。こちらからはこの経験を活かしてもっと視野を広げ、成長していきたいと思いました。

日仏の農業の違いを知った

南部高校 食と農園科 加工流通コース3年

吉田 有彩

今回の日仏交流は、日本とフランスの農業や文化の違いを知ることができたり、フランスの高校生と交流することができたりと、とても貴重な経験をすることができました。

3日間の交流の中で特に印象に残っているのは、イッサンジョー市場の訪問とチーズ工場の見学です。市場の訪問では、合同調理で使用する材料を調達しました。チーズや

肉、パンなど様々なものが売られており、見ているだけでも楽しかったです。チーズ工場の訪問では、普段見ることのできないチーズの製造現場を見学することができ、とてもいい経験になりました。今回の日仏交流は、短い時間だったけどとても良い3日間でした。



語学の大切さを痛感

南部高校 食と農園科 調理コース2年

大崎 拓

僕が、フランスに行き感じてきたことは、積極的に人と関わり、そこから色々なことを学んでいくことが大切だということです。それともう一つは、語学の大切さです。小

これからも学ぶということ
を忘れず、色んなことに対し
て勉強していききたいと思い
ました。

中高で習う英語や、フランスへ行く前にもっとフランス語を勉強していたらなと後悔しています。それがあればもと会話のレパートリーが増えて、コミュニケーションがとれたなと今になって思います。

日仏農業高校祭に参加して

南部高校農業科教諭

谷口 和久

令和7年2月4日～9日にかけて、フランス イッサンジョーで行われた日仏農業高校祭に生徒3名、引率教員2名

6日は交流会、7日は農業高校祭に参加し、8日にフランスを出国し、9日に帰国しました。

で参加しました。4日に出国、5日にフランス入りし、以前から交流のあるリヨン プレサン高校を訪問後、イッサンジョーに移動しました。宿泊はサン・ガブリエル・ウジェニ・ジュベール・イッサンジョー・カトリック学園(St. C)の寮でお世話になりました。

プレサン高校では、広大な農場を案内していただき、循環型農業や地域貢献への取り組みについてお話を伺いました。交流会では、フランスから参加の9校の生徒と一緒にマルシェで買い出しを行い、昼食を共同で調理し、交流を図りました。農業高校祭では、



南部高校に100万円寄付

野球部にも、みなべ町にも

野球部OBの庄司さん(大阪)

令和6年7月、大阪箕面市電気空調設備工事会
社会長、庄司修三郎さん
(83)は、南部高校に県

を通じて「こどもたちの
教育環境の充実」にと100
万円を寄付されました。

また、南部高校野球部に100万円のほか冷蔵庫などの備品も寄付、みなべ町にも100万円を寄付されました。

庄司さんはみなべ町筋出身で、1960(昭和35)年に南部高校を卒業。現在、南部高校学友会大阪支部の支部長、同校硬式野球部OB会 特別顧問をされています。



(左から、辻校長、庄司さん、東学友会長)

日本の食文化に関する講演会や地元の工場や農業高校を見学させていただきました。今回の訪問で、農業大国であり美食の国であるフランスの農業や食文化を体感することが

できました。学友会の皆様方よりいただいたご支援のおかげで生徒、教員共々貴重な経験を積ませていただきました。本当にありがとうございます。

「南高」が中心に！

昭和六十一年卒 大樫 浩史

私は昨年四月にみなべ町立南部中学校長を拝命し、「南高」学校運営協議会の一員を末席で努めさせていただいています。

『なんこう』ですね」とすぐ読んでいただけました。また、当時出生率が全国一でも知られており、ふるさとを誇りに思うことができました。

私は三八期(昭和六十一年)卒業生です。全校生徒百名に満たない南部川村立高城中学校から千数百名の南高に進んだ際、大きな刺激を受けた覚えがあります。

その後学区制が撤廃され、「みんなが行く高校を選ぶ」から「やりたいことで高校を選ぶ」になって二十数年が経っています。南部中では、将来の夢をしっかりと考えた上で進路選択を考えることを目指し、キャリア教育に力を入れています。地元で色々な職業に触れるのは勿論のこと、世の中

当時学区制があり、南部町と南部川村の多くの中学生が南高に入学する時代でした。私が入学する前年には硬式野球部が夏の甲子園出場を果たしています。また、体育祭や文化祭も活気があり

には色々な働き方や生き方があることを学んでほしいと思っています

「いきいき」とした時代でした。

その後県外で数年居ましたが、「南部高校」では正しく読んでいただけなくても「南高」と書けば、「ああ『南高梅』の指導を展開しています。



南高普通科で力を入れられている「南高版デュアルシステム」もインターン制度をとり入れた先進的な取り組みと聞いています。



また、本校では南高と隣接している強みを生かし、全生徒が最先端の施設でパン作りなどを体験させてい

また、本校では南高と隣接している強みを生かし、全生徒が最先端の施設でパン作りなどを体験させてい

「一目百万香十里」と呼ばれる梅の生産も、後継者不足や温暖化の影響で大きな曲がり角に直面しています。「南高」が、この困難な状況を突破する中心となってくれることを願ってやみません。

「南高」学校運営協議会委員
南部中学校校長



南部高校学友会大阪支部来校

学友会大阪支部の会員五十余名が南部梅林を訪れた際、高校を訪問、フランスの農業高校祭に生徒が訪欧した時の報告などを聞かれました。その後野球部の練習を見学

し、激励されました。庄司大阪支部長は昨年、野球部にも寄付されましたが、今年もたくさんのボールを寄付され、贈呈式も行われました。



夢を語ろう会

昭和五十三年卒

中西 雅洋

私の会社は、東京都品川区に本社があるソフトウェア開発会社、(株)キューブシステムです。今回は、昨年当社で行ったイベント企画「社長と夢を語ろう会」をご紹介します。参加メンバーが、自分の夢を語る時には、とてもいい表情で、共感しているメンバーのリアクションも素晴らしい、いい企画でした。

私の答えに対して、

「よくわかりました」

というコメントも返ってきます。今回ご紹介する企画は、オンライン型ではなく、対面で、参加者10名、自身の夢について語ろうという企画です。参加メンバーが、穏やかで、とてもいい表情で話す姿や、それを聞いている参加メンバーのリアクションとして、「いいね!」、「自分もそう思うよ、一緒にやろうよ。」、という共感の姿勢に触れることができます。私の夢は、「社員の皆が、誇れる

る会社にする」ということです。当社のこと、社員が取り組んでいるテーマを、それぞれが、誇らしげに話す、そういう会社にしたいと思っています。南部高校のみなさんも日々いろいろなことに挑戦したり、取り組んだりして頑張っていると思います。みなさん

も、是非自分の夢を語ってみてください。多少曖昧で、なんとなく想うということではないと思います。はっきりきめなくてもいいので、これ面白い、こうなりたいと思う、自分が成長し、誇らしげに話している姿を想像してください。今の自分を鼓舞して目標を上げて思いをはせてみてはどうでしょう。その時の皆さんはとても、いい表情で話されていると思います。皆さんの夢に期待します。

中西雅洋氏 略歴

1958年11月6日、みなべ町生まれ。南部小学校、南部中学校、南部高等学校に通い、京都大学に学ぶ。その後、(株)野村総合研究所に勤務、システムエンジニアリング、システムコンサルティングなどの業務に従事。2018年より現在の(株)キューブシステムに勤務、2020年6月代表取締役社長執行役員に就任、現在に至る。神奈川県在住。

ご紹介

「みなべ文芸」が発行している『随筆みなべ』は創刊六十七年になります。

会員数は百名余りで、その中には県内外で活躍されている南部高校出身の方も多く、年二回集う機会を持ち親睦を深めています。

『随筆みなべ』は図書館においていますし公民館で販売もしています。是非御一読くださり、寄稿して頂ける方を募集しています。

入会のお申し込みは、みなべ公民館まで。

(0739-721-1400)

随筆みなべ

編集委員 松川賀子



高崎で語った南部高校の名前とこれから

昭和五十四年卒 渡辺 和博

私は、昭和54年（1979年）に南部高校を卒業しました。大学を経て会社に入り、現在は全国各地の中小企業の経営者に、地域の資源を活かしたビジネスのつくり方、既

に知られていますが、実は全国第2位の梅の生産地です。生産品種は白加賀が中心で、甲州、梅郷、南高も栽培されています。

お話ししたのは、地域が持っている価値をどう発掘し、それを現代の

生活者・消費者が求める商品やサービスに落とす込み、持続的なビジネスに育てるかといったテーマでした。

地域の持つ価値は、中に居

る人には気づきにくいものでも、外から見ればとても魅力的という例として、熊野古道の話をしました。いまでこそ国内・海外に広く知られるようになった熊野古道ですが、

私自身を含め地元に住んでいる人間の眼から見れば「ただの山みち」です。それが世界的に価値があるという自覚はありませんでした。

そんな全国各地の実例も話しつつ、実は南高梅の由来になった南部高校の出身なんです」と皆さんに告げて、地域ブランドの活かし方、守り方について議論しました。この歳になって母校の名前を誇らしく語れるのはとても幸せなことだと思います。事業者相談では地元でカリカリ梅を製造している事業者さんと、梅製品がこの先世の中にどんな価値を提供できるのかについて一緒に考えました。これはみなべにとっても共通の問題です。

ブランドは、消費者と生産者を結ぶ絆であり約束です。日本一のブランドを今後世界



の人を求める価値にどう変えていけばよいのでしょうか。それを担うのは自分を含めた地域と関係を持つ人たちです。南部高校の名前はその中心に位置しているのだと思います。

東京都在住

日経BP総合研究所

上席研究員



校歌碑



中庭のソテツ

♠和歌山県文化表彰受賞記念公演

令和7年5月24日(土)
紀南文化会館小ホール

♠デビュー10周年記念コンサート

令和8年3月29日(日)
紀南文化会館大ホール



ふるさととは心の支え

シンガーソングライター

川島 ケイジ

「挑戦することを諦めたら
そこで終わり。」

この言葉はずっと自分の胸
の中にあります。あなたには
無理だと鼻で笑われたことは

何度もありました。

心が不安に押しつぶされそ
うになったり、ネガティブな
気持ちに支配されそうな時は
頭より足を動かしてきました。
最終的にはなんとかなると言
い聞かせて。

後悔だけは絶対にしたくな
い。振り返った時に自分の選
んだ茨の道を正しいものにす
るのは自分次第だと信じてき
ました。

それでも何かを見失いそう
になることがあります。都会
はあまりにも華やかで光が眩
しすぎるのです。

そんな時にふるさとに帰る
と目の前には青い空、海、脈々
とした山、寒さに耐え白く染
める梅の花が広がっている。

遠くから離れてふる
さとを見た時に自分は
なんて素晴らしい場所
で生まれ育ったのだろ
うと改めて感じるので
す。

月の光をたよりに歩
き、満天の星空を眺め
ているととても大切な
ことに気付かされます。
大好きなことを続け
られる幸せを日々感じ
ながら、信じた道を歩
き続けています。

そして、多くの方に
支えられていることも
常を感じています。次

は自分が
皆さまの
光になれ
るように
たくさん
の歌を届
けていき
たい。そん
な想いで
ステージ
に立って
います。こ
れからも

挑戦することをやめるつもり
はありません。

5月24日には和歌山県文
化表彰受賞記念公演が紀南文
化会館小ホールで、そして来
年2026年3月29日にはデビュ
ー10周年記念コンサートが
紀南文化会館大ホールであり
ます。

紀南文化会館大ホールはデ
ビュー記念コンサートを開催
した思い出の場所でもありま
す。同じ場所でもた歌えるこ
とに喜びを感じております。

いつもどんな時も僕の心の
情景として支えてくれたふる
さとに感謝の気持ちを込めて

梅の花を君に見せたい
そう 誇り高く 白く染める
美しい花を

梅の町を君に見せたい
そう 僕らが生まれた町を
そう 僕らが愛する町を

(川島ケイジ作詞「僕らが生まれた梅の町」より)



川島ケイジ氏 プロフィール

シンガーソングライター 本名：川島敬治

南部高校卒。平成29年12月、「みなべ町ふるさと
大使」に就任。令和5年度 和歌山県文化奨励賞受
賞。自身が作詞・作曲した「僕らが生まれた梅の町」
は、みなべ町の公認ソングとして認定された。

歌います。川島ケイジの魂の
歌を是非聴きにきて下さい。

輝け！

南高生！

食と農園科で学ぶため、東京からやってきた川口みなみさんに岩本副会長がインタビューしました。

南部高校に入学してどうですかと聞くと、梅やパンを加工するのが東京ではできないので面白かったですという感想が返ってきました。UME-1の梅料理コン



テスト、グルメ甲子園で南高が優勝しましたが、その時販売したのも楽しかったそうです。

ホームシックになったりしませんかと尋ねましたが、寮生活は楽しいし、田舎の方が自然がまわりにあって、居心地がいいということです。部活はバレー部で、アルバイトもしながら勉強も頑張っていて、どんなことがしたいかという問いに、卒業したら進学したいですと答えてくれました。

益々輝け、みなみさん！



梅の里スポーツクラブの紹介

平成六年卒 辻本 裕一

総合型地域スポーツクラブ梅の里スポーツクラブは、みなべ町教育委員会が設立準備委員会を発足し、令和3年に設立されました。

総合型地域スポーツクラブとは、地域住民の健康増進、地域コミュニティの形成、青少年の育

成、高齢者の健康維持と社会参加、スポーツの普及などを目標に掲げて活動するクラブで、梅の里スポーツクラブも「スポーツで町おこしを！」をキーワードに、ヨガ教室、Tボール教室、サッカー教室など様々な運動教室を開催しております。また、運動教室以外にも旧清川中の体育館に設置されたボルダリングウォールの委託管理、ゆめはぐ



館（旧南部幼稚園）の指定管理に携わったり、町内外の様々な団体と連携しイベントを催したりしております。最近では、中学生年代のサッカーチーム立ち上げに向けて体験会を実施いたしました。みなべ町内には小学生年代

のサッカーチームはありますが、中学生年代は部活動もクラブチームも無く、小学生までサッカーをしていた子供達は、中学生になるとサッカー以外のスポーツを選択するか、他の自治体のサッカーチームまで通っている状況です。そのため、当クラブにも中学生年代のサッカーチーム設立の要望が数多く寄せられておりましたので、今回のサッカーチーム設立に動き出しました。しかし、決して順風満帆のスタートではなく、解決しないといけない様々な課題が存在します。その一つが活動場所です。現在、様々な場所での活動を模索しており、南部高校にもグラウンドをお借り出来ないか提案させて頂いております。将来的には母校である南部高校とも連携をとりながらスポーツで活気のある学校作りのお手伝いなども出来たらと考えております。

総合型地域スポーツクラブ
梅の里スポーツクラブ

理事長

令和6年度 学友会 会計中間報告

令和7年2月2日現在

日付	支払先	内容	収入	支出	残高
4月1日		繰越金	2,812,063		2,812,063
5月17日	日本郵便株式会社	郵送費		756	2,811,307
6月21日		本部だより 印刷費		71,500	2,739,807
		同窓会会議費		557,025	2,182,782
		同窓会 寄付金	70,000		2,252,782
8月13日		利息	168		2,252,950
1月14日	日本郵便株式会社	郵送費		1,100	2,251,850
		学友会費 (2,000円×90名)	180,000		2,431,850
合 計			3,062,231	630,381	

学友会本部

役員			委員		
会 長	東 善彦	13期36年卒	平野 均	福田 貴啓	畑崎 恒定
副 会 長	三前 雅信	16期39年卒	萩野 幸一	天野 仁	寺前 則彦
	猪野 佳優	25期48年卒	楠本 太一	猪野 佳優	酒井 卓雄
	植田 英明	24期47年卒	三前 雅信	原田 武俊	佐々木敏明
	山崎 崇	23期46年卒	植田 英明	原田 覚	西玉 啓子
	山本 康雄	34期57年卒	宮本 正信	松川 賀子	坂本 隆
	岡田 敦雄	31期54年卒	山崎 崇	出口 征子	西川 昌澄
	岩本 恵子	27期50年卒	豊田 泰猛	二葉美智子	番匠 勇
	松川 賀子	29期52年卒	東 善彦	串 道代	永井 俊子
	宮本 正信	22期45年卒	佐々木龍雄	熊本 茂美	磯崎美佐子
	寺前 則彦	22期45年卒	山本 康雄	細川 千晶	富士 八郎
事 務 局 長	天野 仁	21期44年卒	細川 行広	船谷江伺子	松下 恭子
事務局次長	番匠 勇	33期56年卒	辻本 裕一	花村裕美子	猪野 克子
事 務 局 員	葛城 洋	38期61年卒	小山 豊宏	松崎なおみ	新家 昭輝
	狩谷 弘	51期平成11年卒	渡口 喜弘	岩本 恵子	細川 安弘
顧 問	原田 武俊	12期35年卒	西山 博康	岡田 敦雄	
幹 事	楠本 太一	21期44年卒	山本 茂	小谷 正人	
	豊田 泰猛	31期54年卒	棒引 昭治	瀧川 英之	
			小田 修	殿畑 雅敏	
			寺谷 雄二	谷口 文治	

龍神分校紹介

「心を砕く」

南部高校龍神分校教頭

中野知珠子

私は南部高校に14年勤務し、令和6年度からは龍神分校で勤務することとなりました。4月に赴任し、私が一番驚いたことは龍神の地域の方々が「自分ごと」のように分校に心を寄せてくださることです。例えば正門の学校名の文字が薄いからと、炎天下にペンキをぬって下さるOBの方や、グラウンド整備を仕事帰りにしてく下さる方、寮の改善のために働いてくださる方、寮生が快適に過ごせるようにとたくさんの差し入れをくださる方々。その皆さんが一緒に、「分校生は龍神の宝、龍神に来てくれてありがたい。龍神に高校生がいてくれるだけで元気が出る」と口にします。分校に対する支援は、様々な形で行われ、教職員も学校の説明のために県外の学校を

回ったりし、地域の方々が心を砕いてくださることに応えらるるようにと生徒獲得に取り組んでいます。「心を砕く」の意味は、「心配する・真心を尽くす」ですが、別に「うまく方法をなんとか考える」の意味を持ちます。前年度、硬式野球部は県ベスト8に入りました。そのときの村をあげての応援に生徒たちも懸命に応えてくれました。生徒たちは村内の清掃ボランティアや村民文化祭・地域の清掃・防災学習など、地域の行事には積極的に参加し、令和6年度は龍神村内の全ての校種と



令和6年度

■全校生徒数：28名

■クラブ：野球部 ソフトテニス部
アート部

交流会をしました。生徒たちは生き生きと小中学校生に接し、「地域に育てられている」と実感しました。

私
た
ち
も

「心を砕いて」生徒たちに接することが大切だと思

いました。「見返りを求めない
サポーターに徹すること」つ
まり「心を砕く」ことを南部
高校・龍神分校両方の支援を



たんぽアート

◆令和6年度末人事異動◆

辻強志校長は、田辺工業高校へ転任され、笠田高校から丸山寛校長が南部高校に着任されました。

編集後記

編集後記

できるだけ多くの
方に目を通していた
だけるような紙面に
するために、編集委員
の知恵を出し合いま
した。一頁一頁の編集

(編集委員一同)

編輯委員

天野、松川、永井、磯崎

*** お知らせ ****

- 南高学友会本部総会
日時：令和7年5月 19 日（月）19 時～
場所：南部高校農場多目的教室
- 学友会本部だよりはみなべ町役場を通じて
全地区で回覧しています。また、南部高等学
校ホームページにも掲載しています。